

# 韓国鉛業界の行方

## 17年統計を読む①

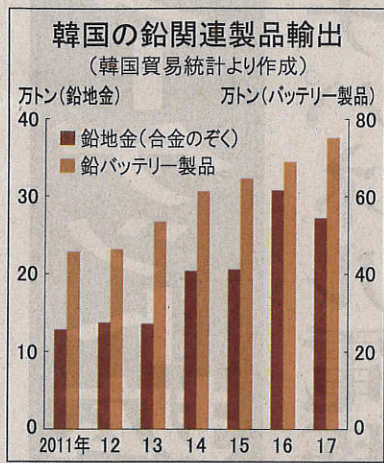
### ◆地金輸出の一服

韓国の旺盛なりサイクル原料調達、「インブット」の裏には、製品の「アウトブット」がある。同国は廃バッテリーの輸入量と同時に、自動車用鉛バッテリー製品の輸出量においても世界最大であり、鉛地金に関しても世界第2位の輸出国の地位を築いている。これらの製品輸出の勢いが衰えない限り、原料の大量輸入も続くだろう。

韓国の鉛地金の輸出量は12年にドイツと英国、16年にはカナダの輸出量を上回り、豪州に次ぐ世界第2位となった。合金を除いた地金だけではすでに豪州

を上回っており、リーマン危機後に約4倍に拡大、16年は30万トンに達した。しかし、17年の韓国の鉛地金輸出は前年比11・6%減の27万2272トンと4年ぶりに減少。米国向けは13・1%増の12万6920トンと増え、インドやベトナム向けなどの上位相手国向けは堅調だったものの、タイやインドネシアなど東南

アジア向けの数量が減少したのである。タイの貿易統計によると、17年の最大輸入先は8年連続の韓国から豪州に切り替わっており、輸入シェアも39%から24%に下がっている(1-11月)。春から夏にかけての韓国二次精錬業界での原料不足も背景にあったが、どの市場向けでも拡大一辺倒だった韓国の地



金輸出が頭打ちとなり、17年は一つの転換点を迎えた。

### ◆3ナイン仕様

この東南アジア市場には、日系バッテリーメーカーも多く進出しており、かつては日本の電気鉛の主力輸出市場の一つだった。しかしリーマン危機後、輸

97%以上)に変わっていることが原因では「(商社)とみており、単なる競争の結果ではない」という。

日系バッテリーメーカーが使用する品位は4ナインだが、供給できるサプライヤーは世界でも限られている。しかも、4ナイン相当の電気鉛需給が逼迫

ナイン7があり、バッテリーの仕様変更は3ナイン7の輸出拡大を後押ししたが、同時に豪州鉛との競争を強いられることになった。

これも地金輸出で起きた変化だった。

### ◆18年連続の増加

韓国の自動車用鉛バッテリー製品輸出 (単位:トン、%)

	2017年	2016年	増減
米国	106,868	74,304	43.8
UAE	100,519	116,700	○13.9
日本	55,104	49,281	11.8
サウジアラビア	50,957	57,190	○10.9
豪州	41,233	41,292	○0.1
英国	37,567	34,625	8.5
その他	359,610	316,293	13.7
合計	751,858	689,685	9.0

(韓国貿易統計より作成)

# 米国とバッテリー強化

## 地金輸出は転換点に

出余力がなくなった日本に代わって、顧客の多くが韓国二次製錬コリアジントクの4ナイン(純度99・99%以上)に移った。今回さらに豪州に移ったが、市場関係者は「タイでの韓国鉛から豪州鉛へのシフトは、ユーザーの仕様が3ナイン7(99・

した12-13年を境に、海外バッテリーメーカーで3ナイン7を使用する動きが広がった。日系メーカーでも部分的採用が始まり、その使用比率は徐々に高まっていくといわれる。

韓国の鉛地金輸出は、一次製錬鉛の4ナインと二次精錬鉛の3

は2倍以上に増えおり、前年比プラスの記録は何と18年連続に及ぶ。輸出先は幅広く、軽く100カ国を上回るが、09年以降首位だったUAE(アラブ首長国連邦)と米国が入れ替わった。UAEには巨大な中古車貿易拠点

があり、そこで韓国製バッテリーは補修用として搭載されている。12年から本格化したUAEからの廃バッテリー輸入も、この製品輸出ルートをさかのぼる形で道筋がついて増えていった。対UAE輸出の10万ト割れば4年ぶりのことである。

これで米国は、鉛地金とともに韓国の最大輸出相手国となった。米国国内ではカー量販店などのバッテリー需要家が、韓国バッテリーメーカーでOEM生産した製品を自社ブランドで発売し、取り替えた廃バッテリーを帰りの荷として韓国に送っているとみられている。製品と原料の交換、いわゆる「バーター」

で築かれた関係を強化するため、地金からバッテリー製品へと鉛輸出の軸足をシフトしているのが、17年統計からは読み取れる。なお、日本に対する輸出も前年比11・8%増の5万5099トで過去最多だった。

◆18年は輸出減少か

率に低下している。この輸出承認問題を転機として、さらなる原料ソースの深耕のため、米国やUAEのような「バーター」を築ける相手国探しを優先すると考えられるが、すぐにはその対日輸入量をカバーできないため、引き続き対日情勢を注視しているだろう。

法改正により昨夏以降、日本から韓国への廃バッテリー輸出承認が下りない状況だが、韓国側からすると輸入原料の約2割が消えることになり、これら鉛関連製品の輸出にも影響が出るのは間違いないだろう。仮に日本側の承認が下りても、従来のように実績をほるかに上回る輸出数量枠は認められないため、調達は抑えられそう

(桐山 太志)